



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

*The Next Perspective*

YBHD NEWS No.36

# 株主通信

平成25年11月



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード：5911



代表取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、株主通信「YBHD NEWS」第36号をお届けし、第150期上半期(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)の事業の概況につきまして、別記のとおりご報告申し上げます。

我が国経済につきましては、景気が緩やかに回復している状況の中、平成25年度の補正予算が編成され、復興・防災・安全対策の推進および交通・物流ネットワークの整備等の促進など、政府主導によるデフレ脱却、経済の持続的成長が期待されております。一方では、海外経済が不安定な状況であるため、まだまだ景気腰折れの不透明感が拭いきれない状態にあります。

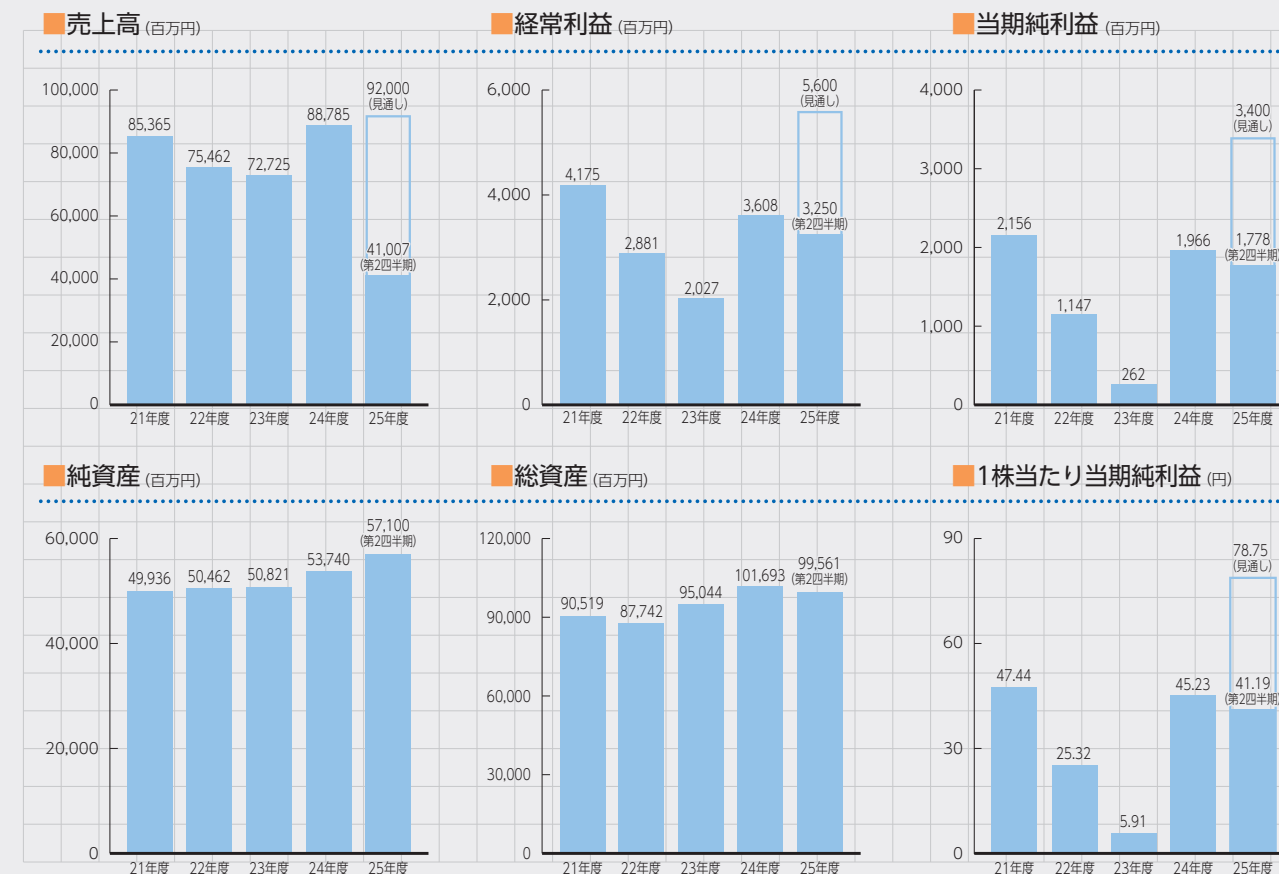
建設業界につきましては、熾烈な受注競争が続いており、また建設作業員が不足するなど、ますます厳しさが増す一方で、東京オリンピック・パラリンピック開催、国土強靱化計画、リニア中央新幹線等明るい話題が出ております。

当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つと認識し、業績・配当性向などを総合的に勘案のうえ安定した配当をすることを基本方針としております。当期の中間配当金につきましては、1株につき5円とさせていただき旨10月28日開催の取締役会で決議いたしました。期末配当を合わせた年間配当金は10円とさせていただき予定しております。

当社グループを取り巻く事業環境は先行きの明るさが見え始めてはおりますものの、依然として厳しい状況が続いておりますが、役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年11月

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度 (第2四半期)
売上高	(百万円)	85,365	75,462	72,725	88,785	41,007
経常利益	(百万円)	4,175	2,881	2,027	3,608	3,250
当期純利益	(百万円)	2,156	1,147	262	1,966	1,778



当社グループの第2四半期の業績につきましては、  
受注高は454億3千万円  
(前年同期319億4千万円)  
売上高は410億円  
(同408億6千万円)  
四半期純利益17億7千万円  
(同6億8千万円)  
となりました。  
各事業別の状況は  
次のとおりです。

### 1 橋梁事業

受注高は300億5千万円(前年同期比88億6千万円増)となりました。国土交通省を中心に前年同期を上回る国内新設橋梁の発注量に対し、積極的な応札活動を展開した結果、大型工事を含め切れ目のないペースで受注を続けることができました。

売上高は、270億4千万円(同20億6千万円減)となりました。一部大型工事の工程のずれ込みと現場工事の施工高が若干前年同期を下回ったことが原因であり、下期には回復する見込みです。

セグメント利益は、23億3千万円(同9億7千万円増)と、採算性の良い工事の生産比率が高まったことに加え、継続的な取り組みである原価低減と設計変更増の獲得により大幅に増加いたしました。

### 2 エンジニアリング関連事業

受注高は141億4千万円(前年同期比38億6千万円増)、売上高は122億9千万円(同15億8千万円増)、セグメント利益は10億3千万円(同4億4千万円増)となりました。受

注高、売上高ともに、消費税増税前の駆け込み需要が追い風となったシステム建築事業が寄与し、高い稼働率のおかげで業績がさらに拡大し、また、一般の建築事業につきましてもいくつかの建築工事で損益の改善を図ることができました。

今後の経済対策や世界経済の動向により景気は不透明ですが、東京オリンピックの開催が決定したことで数々の関連施設の建設が進んでいくと思われまますので、積極的に営業展開を図ってまいります。

### 3 先端技術事業

受注高は順調に推移し、12億4千万円(前年同期比7億5千万円増)、売上高は前年度下期からの受注の回復により12億5千万円(同6億6千万円増)と大きく増加しました。セグメント利益は1億8千万円(同3億円増)となり、第1四半期に引き続き黒字を確保いたしました。

### 4 不動産事業

不動産事業の売上高は4億2千万円(前年同期比4千万円減)でした。

### 今後の見通し

上期業績につきましては原価低減と設計変更増等が重なり当初予定を大幅に上回り、過去最高の営業利益、経常利益、四半期純利益を計上することができました。

下期は売上高につきましては、橋梁事業とエンジニアリング関連事業の受注が引き続き好調でありますため、当初予想を上回る見込みです。また資材価格、現場労務費、人員補強に伴う固定費等の上昇が、利益の押し下げ要因になると想定されますものの、一方で好調な受注に支えられますため、上期の実績を加えた通期の営業利益、経常利益、当期純利益は、当初予想を大きく上回り過去最高レベルになると予想しております。

# 01 TOPICS [ 市川大橋補修工事、国土交通省関東地方整備局長表彰を受賞 ]

平成24年4月より、横河工事株式会社が施工して参りました「国道357号市川大橋補修工事」が、このたび国土交通省関東地方整備局長表彰を受賞いたしましたので、その概要をご紹介します。

- ・ 工事名称: 市川大橋(山側) 上部補修その1工事
- ・ 工期: 平成24年3月9日～平成25年3月29日
- ・ 発注者: 国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所
- ・ 施工者: 横河工事株式会社
- ・ 工事概要: 鋼床版溶接疲労に伴う当て板補強 延長406m
- ・ 橋梁概要: (架設竣工年度) 昭和55年  
(上部工形式) 5径間鋼床版2主箱桁 (橋長) 406.0m (幅員) 15.0m
- ・ 所在地: 千葉県市川市



市川大橋全景



鋼床版補修の様子

国道357号東京湾岸道路(千葉県区間)は、東京湾に接する主要都市を結び、産業・生活両面において不可欠な幹線道路です。近年の大型車交通量の増加により路線内の橋梁の損傷は著しく、中でも鋼床版構造を採用している連続桁橋は、鋼床版溶接部の疲労損傷事例が数多く発生しています。市川大橋につきましては、大型車の混入率が昭和55年の竣工時から平成22年までの間にほぼ2倍となっており、今後、東京外かく環状道路等が接続されることもあり、さらなる大型車の交通量増加が予想され、疲労損傷箇所の拡大が懸念されています。発生した疲労損傷に対しては、応急対策としてその都度損傷箇所に鋼板当て板補修が行われてきましたが、本工事では、予防保全の観点から恒久的な補修・補強対策として千葉国道事務所管内では過去に例の無い鋼床版上面全長に渡る当て板補強を行うこととなりました。さらに、重交通路線(日交通量8万台)下で約100回に及ぶ夜間交通規制を日々行いながら補強作業をするという厳しい施工条件の中で、全工期にわたる無事故・無災害で無事竣工することができました。当社グループは今後もさらなる努力を重ねる良質な社会インフラ維持の一翼を担い続けていきたいと考えております。

表彰状

市川大橋補修工事  
国土交通省関東地方整備局長表彰  
横河工事株式会社  
平成25年3月29日

表彰状  
市川大橋補修工事  
国土交通省関東地方整備局長表彰  
横河工事株式会社  
平成25年3月29日

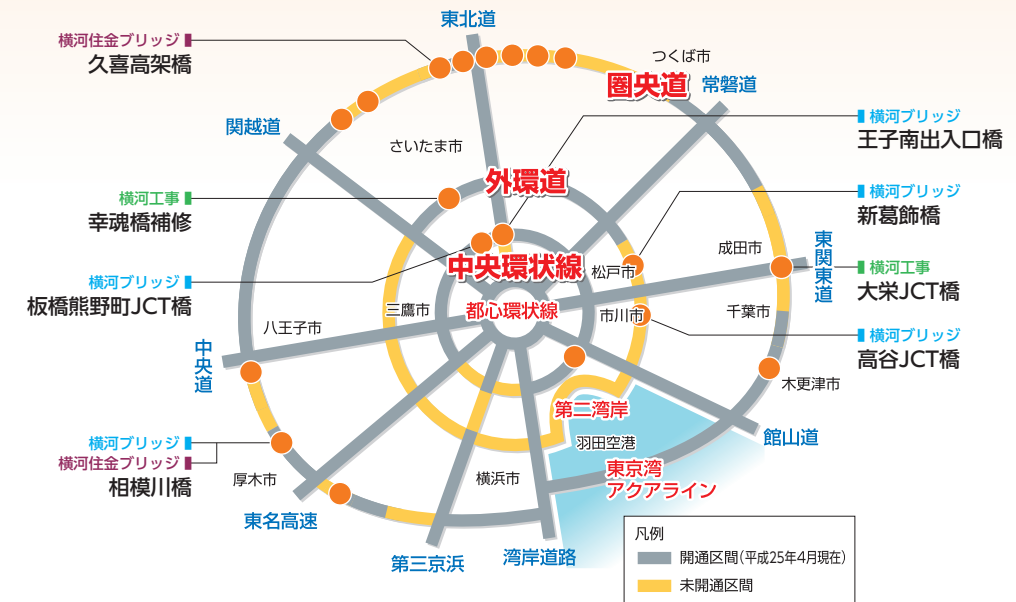
表彰状  
市川大橋補修工事  
国土交通省関東地方整備局長表彰  
横河工事株式会社  
平成25年3月29日

# 02 TOPICS [ 当社グループにおける3環状(圏央道・外環道・中央環状線)の実績について ]

3環状は首都圏に不可欠な道路で、①都心部の渋滞緩和のためのバイパスとして交通を分散させて円滑な流れをつくる、②遠く離れた地域間の移動をスムーズにする、③災害等の迂回ルートを確認する、などの重要な機能があります。また首都高速道路の耐震化工事をスムーズに推進するため、工事期間の代替路として圏央道などの環状道路が必要となります。

東京五輪開催時にも、マラソンなどで都心の交通を封鎖しても首都圏の物流を止めることのないように、環状道路が迂回路となる必要もあるため、ますます注目が集まっています。

この3環状のうち中央環状線が平成26年度には全面開通予定で、整備が急速に進んでおります。当社グループでは3環状関連の物件を過去に数多く受注し、その実績を上げていますので、今回は当社グループが最近受注し、施工した箇所をご紹介します。



●近年における横河ブリッジホールディングスグループが受注した工事

## 連結財務諸表

### Financial Statements

#### ■ 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成25年9月30日現在	前 期 末 平成25年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>62,661</b>	<b>65,330</b>
現金預金	6,412	16,230
受取手形・完成工事未収入金等	37,269	42,259
有価証券	13,006	1,487
たな卸資産	866	1,037
その他	5,160	4,364
貸倒引当金	△ 53	△ 48
<b>固定資産</b>	<b>36,900</b>	<b>36,362</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>19,213</b>	<b>20,690</b>
土地	10,753	11,949
その他(純額)	8,460	8,741
<b>無形固定資産</b>	<b>932</b>	<b>977</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>16,753</b>	<b>14,694</b>
投資有価証券	14,659	11,582
その他	2,133	3,160
貸倒引当金	△ 40	△ 48
<b>資産合計</b>	<b>99,561</b>	<b>101,693</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成25年9月30日現在	前 期 末 平成25年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>28,281</b>	<b>38,097</b>
支払手形・工事未払金等	13,813	17,802
短期借入金	—	1,500
1年内返済予定の長期借入金	1,294	5,000
未払法人税等	1,439	1,498
未成工事受入金	4,597	3,720
工事損失引当金	4,198	5,019
賞与引当金	1,573	1,639
その他の引当金	122	112
その他	1,241	1,805
<b>固定負債</b>	<b>14,179</b>	<b>9,855</b>
社債	2,500	—
長期借入金	3,500	1,723
退職給付引当金	7,041	6,950
役員退職慰労引当金	622	595
その他	515	586
<b>負債合計</b>	<b>42,461</b>	<b>47,953</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>55,102</b>	<b>53,533</b>
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,089	10,089
利益剰余金	36,858	35,278
自己株式	△ 1,280	△ 1,269
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>1,253</b>	<b>△ 514</b>
その他有価証券評価差額金	3,623	1,815
土地再評価差額金	△ 2,369	△ 2,329
<b>少数株主持分</b>	<b>743</b>	<b>721</b>
<b>純資産合計</b>	<b>57,100</b>	<b>53,740</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>99,561</b>	<b>101,693</b>

#### ■ 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成24年4月 1日から 平成24年9月30日まで
<b>売上高</b>	<b>41,007</b>	<b>40,868</b>
売上原価	34,345	35,954
<b>売上総利益</b>	<b>6,662</b>	<b>4,914</b>
販売費及び一般管理費	3,385	3,271
<b>営業利益</b>	<b>3,276</b>	<b>1,642</b>
営業外収益	166	193
営業外費用	192	173
<b>経常利益</b>	<b>3,250</b>	<b>1,662</b>
特別利益	96	19
特別損失	162	279
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>3,184</b>	<b>1,402</b>
法人税等	1,384	654
少数株主損益調整前四半期純利益	1,800	747
少数株主利益	22	67
<b>四半期純利益</b>	<b>1,778</b>	<b>680</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

#### ■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 連結累計期間 平成25年4月 1日から 平成25年9月30日まで	前第2四半期 連結累計期間 平成24年4月 1日から 平成24年9月30日まで
<b>営業活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>3,031</b>	<b>△ 2,738</b>
<b>投資活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>288</b>	<b>△ 1,048</b>
<b>財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,177</b>	<b>△ 1,502</b>
<b>現金及び現金同等物に係る 換算差額</b>	<b>△ 9</b>	<b>△ 17</b>
<b>現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)</b>	<b>2,132</b>	<b>△ 5,306</b>
<b>現金及び現金同等物の 期首残高</b>	<b>15,450</b>	<b>13,085</b>
<b>現金及び現金同等物の 四半期末残高</b>	<b>17,582</b>	<b>7,778</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 株式情報 (平成25年9月30日現在)

Stock Information

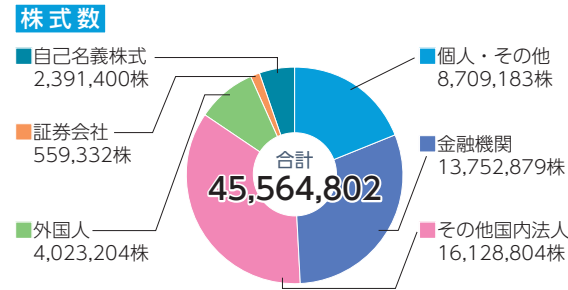
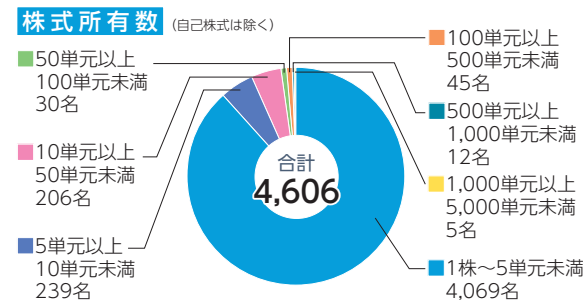
### 株式の状況

発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	45,564,802株
株主数	4,607名

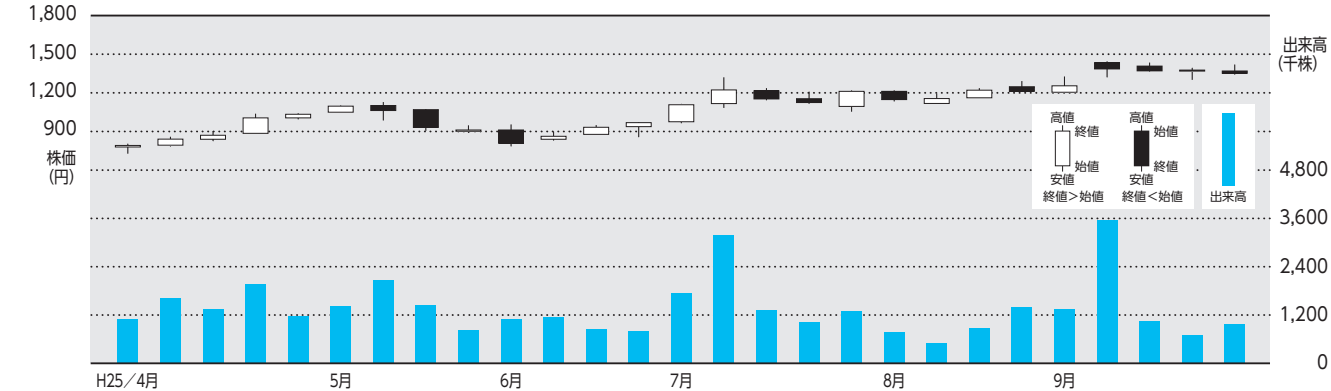
### 大株主 (上位10名)

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,118,000	9.03
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,977,000	6.53
横河電機株式会社	2,793,691	6.13
株式会社横河ブリッジホールディングス	2,391,400	5.24
新日鐵住金株式会社	1,987,303	4.36
瀧上工業株式会社	1,140,000	2.50
株式会社みずほ銀行	890,612	1.95
住友不動産株式会社	674,000	1.47
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	667,000	1.46
東プレ株式会社	616,000	1.35

### 株式分布状況



### 株価および出来高の推移



## 会社概要

Corporate Data

### 会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

### YBHDグループ

- 株式会社 横河ブリッジホールディングス**  
グループ全体の経営管理
- 株式会社 横河ブリッジ**  
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造
- 横河工事株式会社**  
土木・建築・保全
- 株式会社 横河システム建築**  
システム建築・開閉式建築システム・環境
- 株式会社 横河住金ブリッジ**  
橋梁・橋梁関連製品・セグメント
- 株式会社 榎崎製作所**  
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品
- 株式会社 横河技術情報**  
情報処理サービス・ソフトウェア開発
- 株式会社 横河ニューライフ**  
不動産管理・情報システム・人材派遣
- 株式会社 ワイシーイー**  
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

### 役員一覧 (平成25年9月30日現在)

代表取締役社長	吉田 明
代表取締役専務	名取 暢
取締役	藤井 久司
取締役	上原 修
取締役	猪岡 修治
取締役	小川 克美
取締役	高田 和彦
常勤監査役	北爪 恒平
常勤監査役	深沢 誠
監査役	志々目昌史 (社外監査役)
監査役	八木 和則 (社外監査役)
監査役	西山 重良 (社外監査役)

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	<a href="http://www.ybhd.co.jp/">http://www.ybhd.co.jp/</a>

## 株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではありますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 5911

いいかぶ

検索

 空メールによりURL自動返信

kabu@wjw.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を差し送らせていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
(株式会社 a2mediaについての詳細<http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

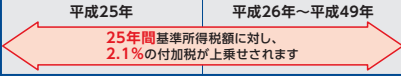
●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

## 『復興特別所得税』についてのご案内

平成23年12月2日に「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法(平成23年法律第117号)」が公布されました。これに伴い、所得税全体を対象として、平成25年1月から平成49年12月までの25年間、基準所得税額に対し2.1%の『復興特別所得税』が課税されることとなりますので、ご案内申し上げます。

なお、上場株式等の配当等に関する具体的な税率は、右表をご参照願います。

### 復興特別所得税を加算した 上場株式等の配当等に係る税金

		平成25年	平成26年~平成49年	平成50年~
		 25年間基準所得税額に対し、 2.1%の付加税が上乗せされます		
上場株式等の配当等に係る 税金と税率	所得税	7.147%	15.315%	15%
	住民税	3%	5%	5%
合計		10.147% [軽減税率]	20.315%	20%

平成25年1月以降の所得税率の計算方法 → 平成25年1月~平成25年12月 ⇒ 7% + 7% × 2.1% = 7.147%  
平成26年1月~平成49年12月 ⇒ 15% + 15% × 2.1% = 15.315%

※上記税率は源泉徴収が行われる場合の税率です。なお、内国法人の場合は住民税が徴収されません。  
※発行済株式の総数等の3%以上に相当する数または金額の株式等を有する個人の大口株主様につきましては、別の税率となりますので、ご注意ください。  
※詳細につきましては、所轄の税務署にお問い合わせください。

※表紙の写真は相模川橋(神奈川県海老名市~厚木市)  
8径間連続箱桁橋2連(橋長:上り線563.5m・下り線568.0m)

 株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表)

<http://www.ybhd.co.jp/>

